

【埼玉県新座市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

- (1) 児童生徒を誰一人として取り残さない学びの実現
- (2) 児童生徒が自ら課題を持ち、個別最適な学びや多様な他者との協働的な学びを通して、主体的に学び、課題解決に向かおうとする学びの姿
- (3) 学びを更に発展させ、追究しようとする深い学びへ向かう児童の育成

2 GIGAスクール構想第1期の総括

本市では、「GIGAスクールNEXT5.0～授業改善でSociety 5.0を自在に生きる力を育む～」という指標を作成し、市全体で授業改善に努めてきた。

令和4年度	○ 授業改善の機運醸成（カリキュラムマネジメントによる下支え ○ デジタル・シティズンシップ教育の推進（他律から自律へ） ・ MEXTCBT（文科省CBTシステム）の試行 ・ 学習eポータルの一部導入 ・ 学習支援ソフトの全校導入による協働的な学びの充実
令和5年度	○ ハイフレックス授業の日常化 ・ MEXTCBT（文科省CBTシステム）の稼働 ・ 学習eポータルの稼働 ・ デジタル教科書の教科拡大 ・ 新校務システムの稼働
令和6年度	○ 公正に個別最適化されたSociety 5.0にふさわしい授業の実現 ○ 多様な他者と協働的に学ぶハイフレックス授業の実現

これを踏まえ、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現により、児童生徒の学力向上や学びに向かう力・人間性等の育成に取り組んできた。実際、これまで授業に参加することが難しかった児童生徒が、可能な限り授業に参加する姿や、自分自身の課題に取り組もうとする姿が見られるようになった。また、コミュニケーションに苦手意識のある児童生徒にとっても、端末を使用す

ることによって、自身の考えや意見を発信したり、交流に参加したりできるようになっている。

今後さらに児童生徒の学びの可能性を広げ、深めるための端末の利活用方策については、「3 1人1台端末の利活用方策」に記載のとおりである。

なお、ハード面における施策は「校務DX計画」に記載した。

3 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

- ・ 端末更改による1人1台環境の維持に留まらず、故障頻度が低いとされている端末の採用による安定的運用を通じ、GIGAスクール構想第1期で積み上げた実績を土台に、性能が向上した端末を活用して更なる授業展開を図る。
- ・ 学習支援ソフト（ロイロノート・スクール）やAI型教材（Qubena）のデータの利活用を促進させ、児童生徒と教師の双方で学びの積み重ねを把握することができるようにしていく。
- ・ 教師を対象とした学習支援ソフト等の使用について、初級編と応用編に分けた研修や目的別ICT機器研修等を開催し、教師のICT活用スキル格差への対応を行うことで授業改善を図り、児童生徒の活用の幅を広げる。
- ・ 情報主任等の授業実践報告、授業実践事例の情報収集、情報共有を行い、積極的な活用を通じた教育活動の更なる充実を目指す。
- ・ 家庭への持ち帰りを推進し、学校だけでなく家庭や様々な場面での活用を進める。

(2) 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な学習の充実

- ・ AI型教材、デジタル教材を思考表現ツールとして活用することで、自分の目的・課題や進度に合わせた個別最適な学習を可能とする。また、自分の学びを振り返ることで、自身の学習を評価し改善するなどの調整を行ったり、新たな課題を見つけたりすることができる児童生徒の育成に努める。
- ・ 自分の課題を明確に持ち、ICT機器を課題解決のためのツールの一つとして活用し、学びを広げたり深めたりできる児童生徒を育てる。
- ・ 1人1台端末と電子黒板の特性を生かし、効果的な活用を研究していくことで、協働的な学びの充実を図る。

(3) 学びの保証

- ・ 学習支援ソフトやAI型教材を利用した自分の進度に合った学習、端末

を活用した交流等を通して、不登校や不登校傾向の児童生徒と教師、児童生徒同士が繋がることで、個々のニーズに合った支援や学びの機会を保障し、誰一人取り残さない学びの実現を目指す。

- ・ 教室だけに留まらない端末での交流学习により、どこにいても多様な学びを実現することを可能とし、児童生徒の学びに対する興味関心や意欲を大切にしながら、一人1人の学びを支援する。